

# 01 歴史展示の全体像

## 歴史展示とは

奈良の価値は奈良が、

- 国家基盤が形成された地
- 仏教が伝来した地
- 東アジアとの交流が盛んであった地

であるという「歴史」そのものにある。

国内外からの来訪者に奈良の歴史の価値を理解していただくことは、歴史ある地域としての責務と考える。

しかし、寺院建築や遺跡からの出土物などの「歴史物」の断片的な展示はあっても、その背景となる「歴史の展示」が不十分であるため、奈良の価値である「歴史」を誰もが体感できる状況となっていないことが課題であった。

このため奈良県では、「歴史物」だけでなく、歴史の意味や意義等を分かりやすく展示する取り組みを「歴史展示」という名称で推進し、平成22年度には「明日香における歴史展示実施計画」を策定した。

これは、平成21年度に策定した「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」に基づき、「国家の成立」、「仏教の伝来と興隆」、「東アジア文化の受容と変容」という飛鳥時代を象徴する3つのテーマを設定するとともに、それぞれにふさわしい語り部として藤原不比等、道昭、南淵請安を選定し、歴史ストーリーを作成。歴史展示の手法については、拠点施設と現地がネットワークされた歴史展示システムを構築する計画とした。

平成23年度は、これらを踏まえて「平城宮跡を中心とした奈良エリア」における歴史展示のあり方を検討することで、より多くの来訪者に感動を与え「奈良の魅力向上」につなげる計画を策定する。

※本計画を策定するにあたり、ご意見を伺った有識者の皆様(敬称略)

木下正史	(東京学芸大学名誉教授)
菅谷文則	(奈良県立橿原考古学研究所所長)
千田稔	(奈良県立図書情報館館長)
田辺征夫	(奈良県特別顧問 奈良県立大学特任教授)
松村恵司	(奈良文化財研究所所長)

## 歴史展示の展開方針

先に実施した明日香エリアでの計画を踏まえ、以下のテーマに基づき、コンテンツを作成し、奈良エリアにおいて歴史展示を展開する。

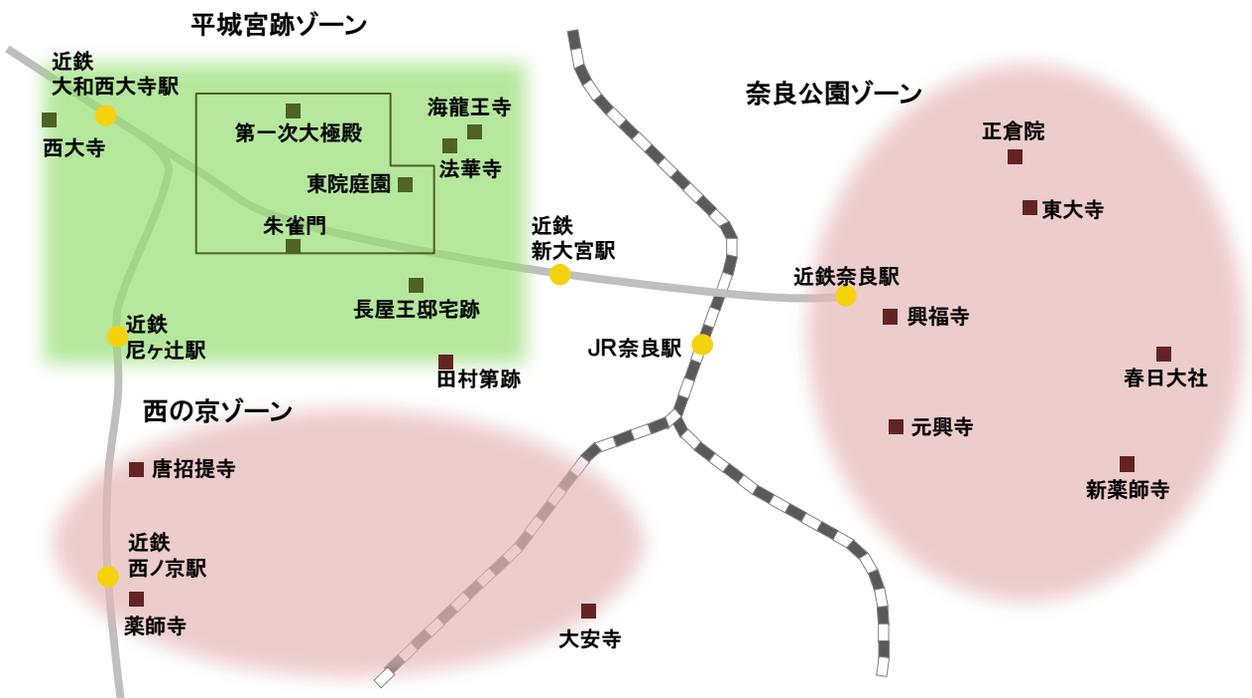
### ■テーマ

明日香における歴史展示実施計画のテーマ「国家の成立」「仏教の伝来と興隆」「東アジア文化の受容と変容」を踏まえ、中学校・高等学校の教科書等の内容に基づき「**国家の確立**」「**仏教の展開**」「**東アジアとの国際交流**」の3つのテーマを設定。

- 国家の確立
- 仏教の展開
- 東アジアとの国際交流

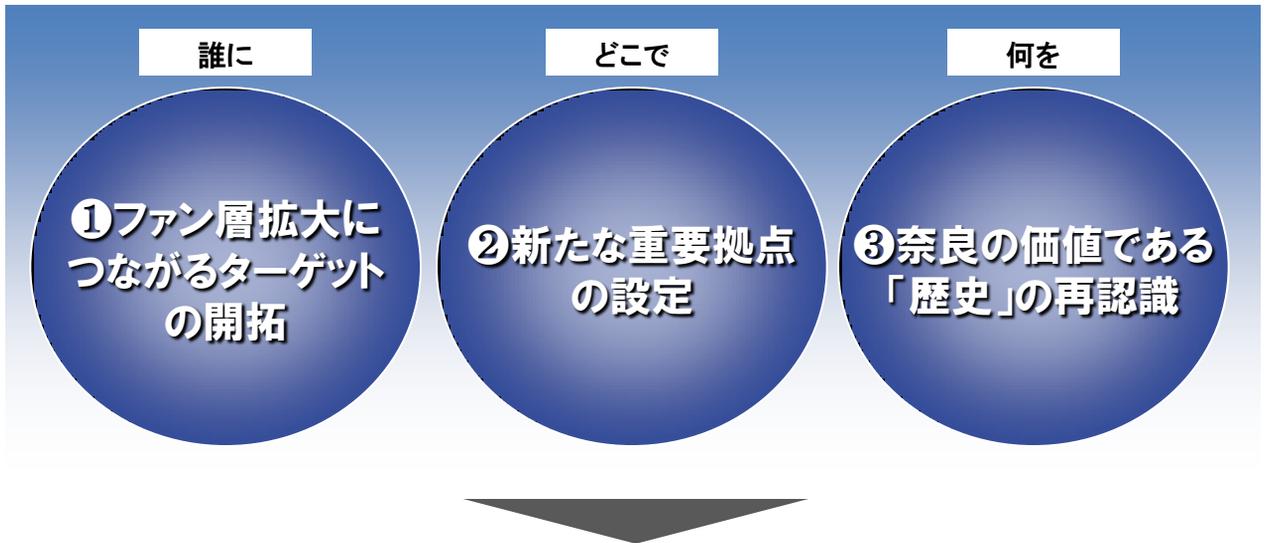
### ■奈良エリア

今回の歴史展示実施計画では、平城宮跡ゾーン・奈良公園ゾーン・西の京ゾーンの3つのゾーンとして構成されるエリアにおいて計画を策定。



奈良エリアは、現在奈良県で最も多くの観光客が訪れるエリアであり、中でも東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡は「古都奈良の文化財」として世界遺産登録をされるなど、奈良県の観光戦略上の重要エリアである。

## 奈良エリアの戦略的方向



「奈良ビギナー」に対し、「平城宮跡」において奈良の「歴史」のワクワク・ドキドキ感を伝える。

### ①ファン層拡大につながるターゲットの開拓

「奈良ビギナー」を開拓すべきターゲットとする

#### 奈良ビギナーは

- 奈良の価値である「歴史」を、これから深く知り始める層
- 今後リピーターとなる可能性が高い層

#### 戦略ターゲット① 学習旅行者

全国から修学旅行等で訪れる学習旅行者を新たな重要ターゲットとして設定。特に中学生は、授業で日本の歴史を学習することから、その中心と位置づける。

#### 戦略ターゲット② 一般若年女性層

近年「癒し」を求めて歴史に興味を持つ女性が増えていることから、女性層、特に若年女性層をターゲットに位置づける。

## ②新たな重要拠点

### 「平城宮跡」を奈良エリアのゲートウェイとする

#### 平城宮跡は

- 奈良時代において、日本の国のかたちが形成されていく等の重要な歴史が綴られた場所
- 国営公園化が計画され、今後ますます整備が進み、魅力あふれるゾーンとなっていく場所
- 地理的に奈良公園ゾーン・西の京ゾーンをつなぐ場所に位置し、奈良エリアを周遊するうえでの拠点に適した場所
- 平城遷都1300年祭において全国から多くの観光客でにぎわい、全国的な知名度を獲得している場所
- 「古都奈良の文化財」として世界遺産登録され、世界にその価値を認められた場所

## ③奈良の価値である「歴史」の再認識

### 奈良の「歴史」のワクワク・ドキドキ感を伝える

#### 奈良時代は

- 国家としての日本の礎をつくった時代
- 仏教を中心とした天平文化が開花した時代
- 東アジアとの積極的な国際交流が行われた時代

これらを単に「知識としての歴史」によって伝えるのではなく、この時代を生きた先人の「思い」や「気概」を基に、体感的・物語的に展開することによって、奈良の価値である「歴史」の再認識を図る。

